



「世界の子どもたちのため
の平和と非暴力の十年」。
これを広めようと、身の回
り品を暗めたバギーを押し
ながら世界中を歩いてい
る。九月中旬に入国した日
本は二〇〇〇年にカナダの
自筆を出発してから五十四
番目の国。齋藤から鹿児島
まで三月月かけて南下中。
カナダで事業に失敗し
「何か活動のあることをし

「子どもに平和を」と訴えながら世界中を
徒歩で旅するカナダ人

ジャン・ベリボーさん



て人生を変えたかった」。かと思ふようになりまし
て。世界行脚の計画を遂げ打ち
明けると、妻は言った。「歩
きながら報道され、子ども
探さるわ。どうせなら『子
どもの十年』のために歩き
なさい」
南米やアフリカの国々で
貧困や暴力がまん延する中
で探る子どもを目的とした
りして歩くことで力にな
りたくなれるのではない
か」と

ている靴は三十九足目
です。ビニーマや靴擦れにも
選したが、南アフリカの
マンデラ元大統領や韓国の
金大中元大統領にも面会
きた。

「多くの人が僕を助け、
後押ししてくれた。日本で
も何人かが見知らぬ僕を家
に呼んで、こちをうまにし
てくれました」

自身には一度も帰らず、
妻は年に一回、旅先に近い
に来る。旅は五大大陸を踏破
した後の一二年秋に終わ
る。「経験したことをうし
生がずか。本当の活動は旅
が終わってから始まる」。
五十三歳